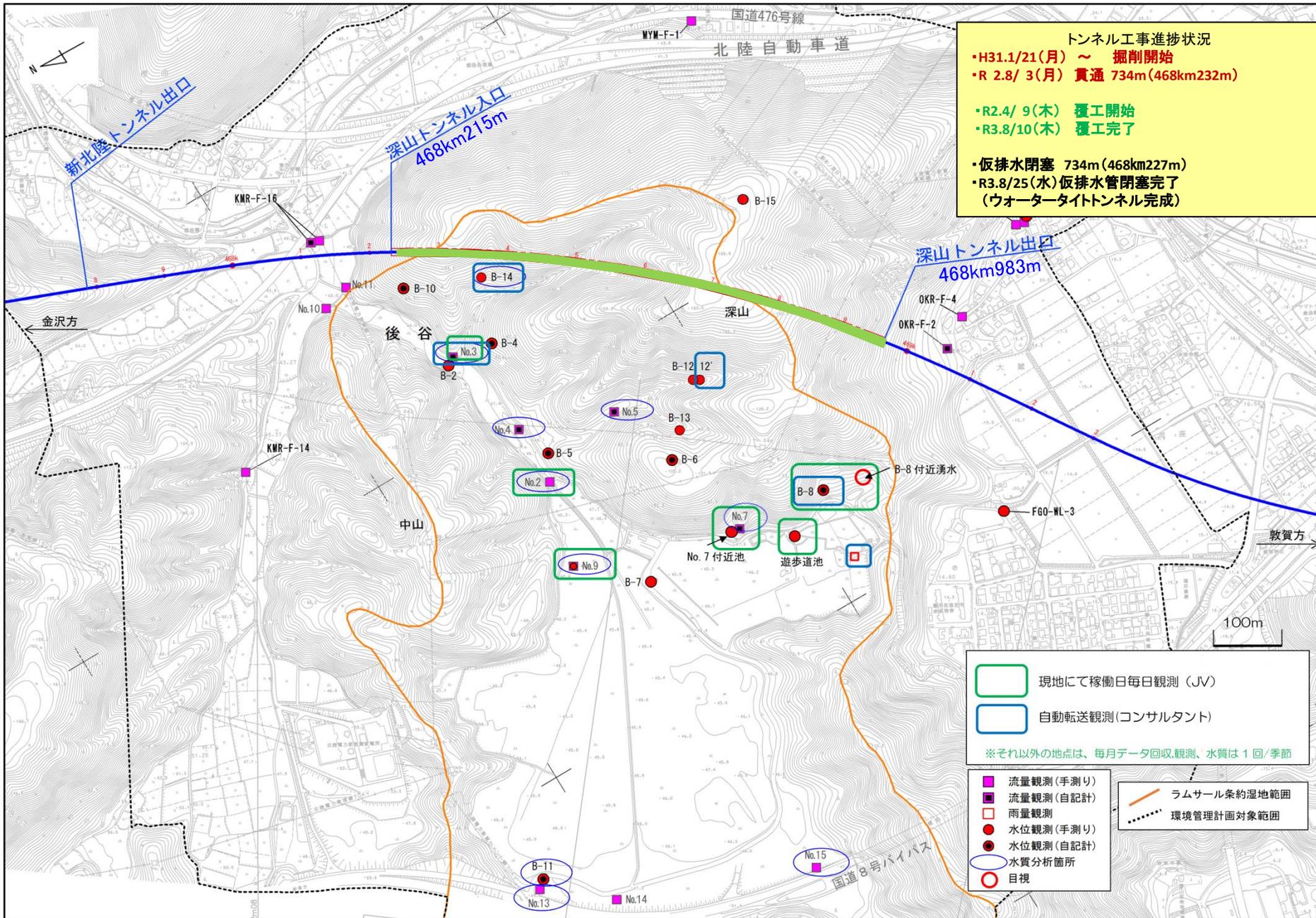


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

調査期間：令和3年8月1日（日）～令和3年8月31日（火）

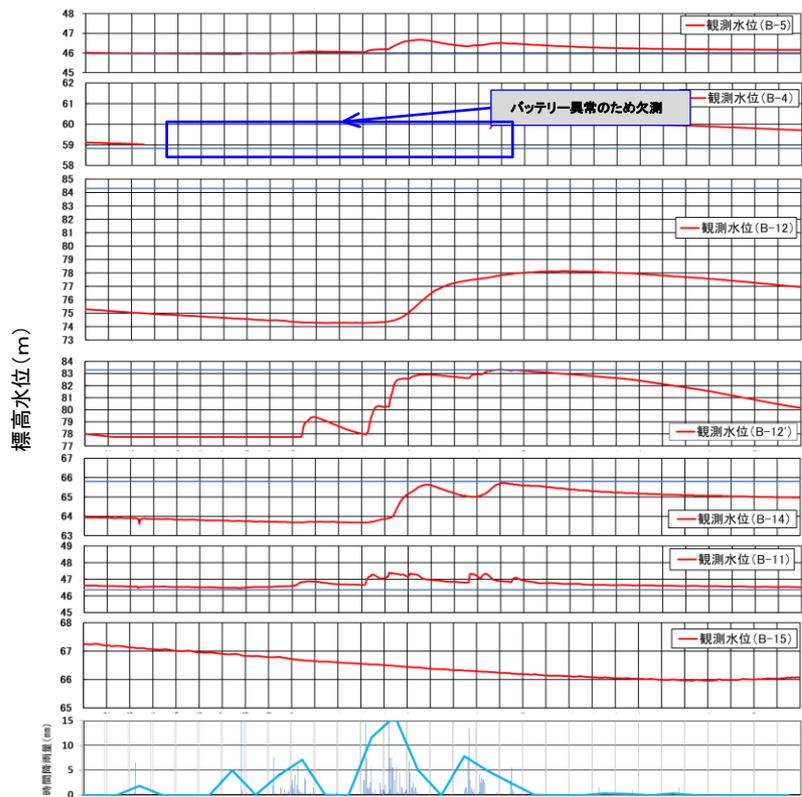
「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋

地下水位観測結果図(自記記録)



流量観測結果図(自記記録)



B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-11 地下水位
過年度最低水位
46.36m

B-15 地下水位

雨量

全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり(注意体制への移行を検討)
- 期間中の地下水位低下量
- 1m未満ないし増加:下記以外すべて
- 2m未満: B-15 □5m未満 □5m以上
- 期間中の流量低下量
- 50ℓ/分未満ないし増加:すべて □50ℓ/分以上
- 期間中のpH変動量
- 0.5未満: B-8, B-12 □0.5以上 □1以上
- 日降水量
- 15mm未満 ■15mm以上:7日 ■50mm以上:1日
- 月降水量
- 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概要

■水位変動について

- ①変化なし。
- ②B-5(自記水位計): 期間中間の降水に明瞭な反応を示し、水位は一時上昇傾向となる。期間後半は、緩やかな低下傾向となり、標高46m付近で一定となる。
- ③B-12(自記水位計): 水位は前半は緩やかな低下傾向である。14日の降水以降水位は上昇するが期間後半では水位は緩やかな低下傾向となる。引き続き過年度最低値を下回っている。今後も注視していく。
- ④B-12'(自動転送): 期間後半からの降水に明瞭な反応を示し、水位は上昇傾向となり、期間中間は過年度最低値付近となるが、期間後半で水位は低下傾向となり過年度最低値を下回る。今後も注視していく。
- ⑤B-14(自動転送): 期間中間からの降水に明瞭な反応を示し、水位は上昇傾向となり、過年度最低値付近となるが後半は低下傾向に転じて過年度最低値を下回る。今後も注視していく。
- ⑥B-15(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。期間中を通して水位は低下傾向を示す。
- ⑦No.3(自動転送): 期間中間からの降水で流量が増加したがそれ以降は減少傾向である。
- ⑧No.5(自記): 8月13～15,17,19日に流量を確認したがそれ以外の期間は流量0となる。⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①日最大降水量: 8/14の63.5mmである。⇒7月の日最大降水量は43.0mmであった。
- ②月前半の降水量: 269.0mmである。⇒7月の月降水量は196.0mmであった。

No.3 流量

No.5 流量

雨量

日雨量